情報連絡員報告結果(令和6年8月)

和歌山県中小企業団体中央会

【和歌山県の業種別・前年同月比の景気動向】

		売上高	在庫回転	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業	雇用人員	業界景況
	食料品製造業	个	1	→	→	\rightarrow	\rightarrow	→	→	→
製	繊維・同製品	Ψ	Ψ	→	→	Ψ	Ψ	Ψ	个	\
	木材・木製品	\	4	4	4	4	4	1	4	\
造	印刷	\	→	→	→	4	→	1	→	\
	化 学	↑	\	→	→	个	→	→	→	→
業	窯業・土石	→	→	→	4	→	→	→	→	\rightarrow
	鉄鋼・金属	个	→	1	1	→	→	1	→	\rightarrow
	その他	4	1	1	→	4	4	4	→	\
	卸売業	个	→	→	→	→	→		→	\rightarrow
非	小売業	+	→	→	→	\	\		\	\
製	商店街	→	→	\	→	→	→		→	4
造	サービス業	+		→	Ψ	\	\		\	\
業	建設業	+		\	4	+	→		→	1
	運輸業	\rightarrow		\rightarrow	\rightarrow	4	\rightarrow		4	\

(増加・好転 ↑ 不変 → 減少・悪化 ↓)

【売上高・収益状況・業界の景況のDI値の前月からの動向】

「業界景況」のDI値は、マイナス 50.0 ポイントであり、前月(7月)調査と比べて 10.0 ポイント悪化となっている。「売上高」は 10.0 ポイント悪化、「収益状況」は 15.0 ポイント悪化となっている。業界景況に関して、情報連絡員 40名のうち、「好転」との回答は1名、「不変」との回答は18名、「悪化」との回答は21名であった。

【全国の景気動向】

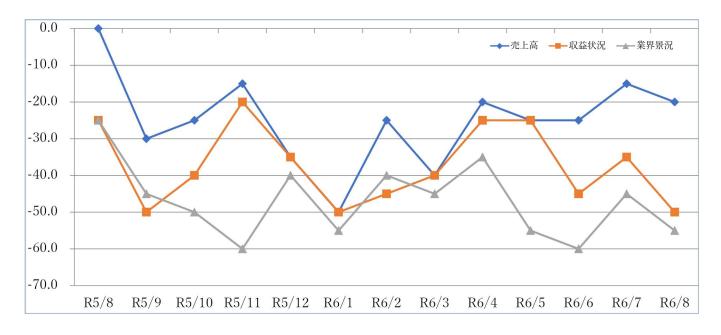
8月のDIは主要な指標で概ね前月比横ばい。お盆休みや夏休み期間中に人流が増加したことから、非製造業を中心に景況感が改善した一方で、需要の減少やコスト高が続いている製造業では景況感が低下。引き続き、人手不足・人材確保の問題が、多くの業種で収益力の足かせとなっている。最低賃金の引き上げも相まって、賃上げの原資確保に苦慮する事業者からは、経営に与える影響を懸念する声が多く寄せられている。



【県内製造業の動向】

生コンクリート製造業からは、加工賃がなかなか上がらず賃金だけが上がり、収益状況が悪化している中、 地域別最低賃金の上昇を危惧している状況との報告があった。

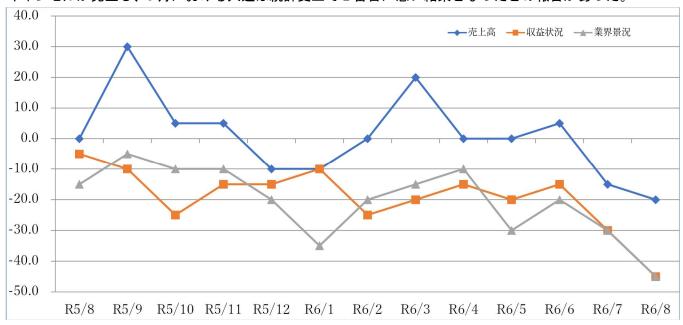
和歌山県下の金属製品製造業からは、人手不足が少しずつ改善されてきているが、取り扱う部品や製品により、厳しい状況が続いている企業もあるので今後注視していかなければならないとの報告があった。



【県内非製造業の動向】

電設資材卸売業からは、引続き物価高や人件費の上昇が負担となっている。そのため、人手不足は解消されておらず人材の確保が課題となっている。また為替相場が円高方向に振れている事で製造、卸売りの採算が改善傾向になりつつあるとの報告があった。

白浜地区の宿泊業からは、観光シーズン最盛期に発表された臨時地震情報と迷走台風の影響により多くの キャンセルが発生し、8月における入込は統計史上で2番目に悪い結果となったとの報告があった。



【特記事項】

集計上の分類業種	 具体的な業種	景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点
来日工の方及末位	六件切る木住	京がの交出としいが四一55万寸、正米社日 米州での同庭が
	縫製業	先の業況が読みづらく、製造期間間近まで発注が出ないことが増え、対応が難しくなってきている。また加工賃がなかなか上がらず賃金だけが上がり、収益状況が悪化している中、地域別最低賃金の上昇を危惧している状況である。
横維工業 	織物業	用途に関係なく、一部企業を除き全体的に減少している。
	手袋製造業	8月の売上は前年同月より減少した。原材料価格や人件費などの増加による物価 上昇で、消費者の購買意欲の低下が懸念されるところである。
	木材・木製品製造業 (和歌山市方面)	8月のプレカット受注は、再び8割台前半で伸び悩んでいる。7月に9割台まで伸び、前半の不振を取り返すかのように見られたが、その後は盛り上がりに欠けた。新築不振が長引き需要好転の兆しが見つけづらい現状である。プレカット工場により手応えが異なっている様子である。また、猛暑や局地的な大雨で、建築現場が遅延傾向にある報告やビルダーや工務店関係に仕事が少ないことが響いているとの報告があった。年後半も盛り上がりに欠け、前半並みを予想する状況である。
木材・木製品	建具製造業	依然として、建築業界は数々の要因により着工控えが続き、当業界もこの影響を強く受け低迷状態が長く継続し、経営的に混迷を深めている。特に、建設業界も含め、当業界の先行きの悪化により人手が遠ざかり、作り手及び後継者不足になっている。
	木材・木製品製造業 (プレカット工場)	製材の受注量は少し減少し、プレカットの生産加工量は横ばいである。また県内 の原木市の単価は安定している。
	家具製造業	当月は想定よりも動きが少なかった。そのせいもあり、物件によっては同業者間での取り合いとなりキャンセルになるケースも出ていた。9月から秋にかけてはもう少し活発になる見通しである。人材面では、工程のほとんどが手作業である家具工場は原価率が常に大きくかつ不確定で、利益率は1割弱、間違えば赤字の場合がある経営環境の中、賃上げも行っているが、他業種水準に及ばないのが現状である。まずは適正価格での販売を行えるような営業基盤を作る必要がある。
化学・ゴム	化学工業	為替が短期間に上下に変動するので事業への影響が読みにくい。
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	公共工事の発注具合により県内各地区での出荷量増減のばらつきが大きくなって いる。また高速道路工事や災害復旧工事による需要が中心となっている。
	金属素形材製品製造業	前年同月比で、売上高は約9%増加した。
鉄鋼・金属	金属製品製造業 (和歌山県下)	各社で人手不足が少しずつ改善されてきているが、取り扱う部品や製品により、 まだまだ厳しい状況が続いている企業もあるので今後注視していかなければなら ない。価格転嫁については、以前に比べ良い方向に進んでいる。
	金属製品製造業 (日本製鉄関係)	販売価格の上昇は、原材料価格の上昇によるもので、収益に変化をもたらすもの ではない。
その他の製造業	革製品製造業	前年同様に低調に推移しており、特にバッグ類と婦人靴の動きが悪い。当分この 状況が続きそうである。
	家庭用品製造業	現年の対前月比売上高は減少した。
卸売業	電設資材卸売業	中小企業は、引続き物価高や人件費の上昇が負担となっている。そのため、人手不足は解消されておらず人材の確保が課題となっている。また為替相場が円高方向に振れている事で製造、卸売りの採算が改善傾向になりつつある。今年4月から運送業における年間960時間上限規制が適用され労働時間の短縮により、輸送能力が低下する事が懸念されているが、現状は配送での締め時間が早まるくらいで支障は少ない。ただ物流コストは上昇している。
小売業	ガソリンスタンド業	今年で8年目を迎える『満タン&灯油プラス1缶運動』が9月1日から全国一斉にスタートした。1月の能登半島地震をはじめ地震や台風豪雨などによる自然災害が各地で頻発していることから各家庭においても「石油の備蓄の重要性」のさらなる浸透を図っていく。今夏はお盆期間中も含め猛暑が続き、一定の需要増はあったものの、普通の休日と大差はなかった。また洗車やバッテリーなどの油外部門も需要は増えたものの大幅増とはならなかった。
	時計·宝飾品小売業	地震や台風などの予報が実態以上に報道されたこともあり、ホテルや飲食ほどで はないが来客数は減少した。

	商店街	南海トラフ巨大地震注意の発令や迷走台風の影響により、消費が特に落ち込み、				
商店街	(和歌山市内)	苦しいひと月であった。				
简直因	商店街 (和歌山市内)	8月最終週の台風予報より客足が遠のき、売上が下がった。				
	ガス業	ガス器具の販売が低迷するなか、地域の防災訓練等に積極的に参加し、災害時の プロパンガスの優位性や避難時に役立つガス器具関連商品のチラシ等を配布する 啓蒙活動を来月より実施予定である。				
	宿泊業 (和歌山県下)	8月は南海トラフ地震臨時情報発表に伴い、白浜温泉、南紀勝浦温泉を中心に県下で大規模な宿泊キャンセルが発生した。また続いて、台風 10 号の迷走による影響で、高野山を含め多くのキャンセルが発生する等、8 月は散々な結果となった。				
	宿泊業 (白浜地区)	8月の対前年同月比の宿泊人員は 79.0%、総売上高 82.7%、1 人当り消費単価 104.7%、総宿泊料金 85.4%、1 人当宿泊単価 108.1%だった。2024 年 1 月から 8 月の宿泊人員は 649,665 人で、前年同期間(2023 年 1 月から 8 月)と比べると 1,264 人の増加である。観光シーズン最盛期に発表された臨時地震情報と迷走台風の影響により多くのキャンセルが発生し、8 月における入込は統計史上で 2 番目に悪い結果となった。(白浜温泉旅館協同組合)				
サービス業	飲食店	8月の売上及び客数は、一部の業種を除き、帰省客の増加によりコロナ禍前を超えている店舗が増加しているが、まだ回復していない店舗も多く見られる。特に猛暑によりビアガーデンや居酒屋等は増加している。しかしながら、企業による接待の利用はまだまだ少ない。またランチタイムは賑わっているが、夜は業種により厳しい状況が続いている。温泉・観光地の飲食店やホテルは夏休み客やインバウンドによる外国人等により賑わっているが、南海トラフ地震臨時情報が発表され、訪問客の減少により売上等が減少している。一方で原材料費の高騰が続き、従業員の人件費の上昇により、収益は横ばいとなっている。新規創業資金および既存店の設備投資等の借入が減少しており、経営状況の悪化による廃業店舗も増加している。既存店は設備投資がなく、運転資金の貸し付け希望がほとんどである、またコロナ特別融資の元金返済にも苦慮している。				
	自動車整備業 (御坊市方面)	業界の景況は良い状態ではないが中古車販売店等の問題は沈静化し徐々に元の状況に戻りつつある。				
	自動車車体整備業	人手不足により、仕事への制限が必要となっている。				
	総合工事業 (田辺市方面)	8月の県工事受注額は前年度同月比で、8割弱となった。今後の先細りが心配である。				
建設業	総合工事業 (新宮市方面)	公共工事の発注状況は全般的に昨年並みである。9月から生コン価格の大幅な値上げが実施される。公共工事においては可能な限り早期に設計単価の見直しを実施し、値上げによる損失を最小限に抑えたい。				
是 版本	建築用板金業	和歌山県内の建設現状は先月とさほど変わらず、住宅関連の受注が減少しており、見積りも減少しているところが多い。9月の材料費の値上げが心配である。				
	電気工事業	特に変化はなかった。廃業による組合員の脱退もあったが、新規加入者の問い合わせ等もあり、員数的には現状維持といったところである。				
運輸業	道路貨物運送業 (和歌山市方面)	2024年問題への対応は様々な形で進んできているが、ドライバーや車両の効率的運用への改善が主となっており、運賃見直しは未だ途上である。ドライバー確保のための給与アップや車両自体や燃料部品の価格高騰など運賃を上げてもらっても追いつかない。さらに金利の上昇など経営環境の改善は厳しい状況が続いている。結局は、運賃が見直されないと根本的に解決できない。				
	道路貨物運送業 (有田市方面)	相変わらず地域内の荷動きが少ないが、猛暑による飲料水関連商品の荷動きが見られる。また、燃料の軽油が高値で安定しており収益率の低下に拍車をかけている。				